

理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童の育成
～国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連を通して～

宮崎市立木花小学校
教諭 秋山 俊介

目 次

I 研究主題	2-1
II 主題設定の理由	2-1
III 研究目標	2-2
IV 研究仮説	2-2
V 研究内容	2-2
VI 研究計画	2-2
VII 研究の全体構想	2-3
VIII 研究内容	2-4
1 主題の捉え方	2-4
2 国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫	2-4
(1) 「考えるための技法」について	2-4
(2) 指導事項の整理	2-4
(3) 本研究における重点指導事項	2-5
(4) 構成や推敲の学習活動を充実させるための手立て	2-5
3 他教科等との関連	2-6
(1) 各教科等において求められる言語活動	2-7
(2) 他教科等での活用場面	2-7
(3) 他教科等との関連を図る視点	2-8
4 検証授業Ⅰ	2-8
(1) 国語科の授業実践	2-8
(2) 考察	2-14
5 検証授業Ⅱ	2-14
(1) 社会科の授業実践	2-14
(2) 考察	2-18
6 児童の意識調査と感想	2-18
(1) 意識調査	2-18
(2) 児童の感想	2-20
IX 研究の成果と課題	2-20
1 成果	2-20
2 課題	2-20

参考・引用文献等

I 研究主題

理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童の育成
～国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連を通して～

II 主題設定の理由

グローバル化や情報化など今後の変化の激しい社会を生き抜く児童には、立場や考えの異なる他者と協働しながら課題解決を図ったり、新たなものを創造したりする力が求められてくる。そのために、学校教育では各教科等の指導において、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を育てていくことが重要である。

現在、国語科においては、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本となる国語の能力を身に付けることに重点を置いた指導の改善・充実が図られている。また、国語科で培った能力を基本として各教科等における言語活動を推進している。その成果として、OECD生徒の学習到達度調査（PISSA2012）において「読解力」の平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっているなどの成果が見られている。

一方で、課題も見られる。平成26年度文部科学大臣「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」によると、我が国の子供たちについては、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題があると指摘されている。また、平成28年度の全国学力・学習状況調査の報告書において小学校国語科では、調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くことは、今後、十分な指導の改善が必要であることが挙げられている。本県においても、平成28年度全国学力・学習状況調査では「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」「事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」の指導事項において全国平均正答率を下回る結果となっており、本校においても、同様の結果となっている。これらのことから、理由や根拠を明確にし、自分の考えを表現する力を育成するための授業改善を図ることは喫緊の課題であると考えられる。

これまでの自分の実践を振り返ってみると、国語科「書くこと」の授業では、教科書の例文を参考にさせながら個に応じた指導を行ってきたが、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けさせるまでには至っていない。その原因としては、指導者として、どのような内容をどのように書かせればよいのかを考えさせる際、理由付けや順序立て、評価といった「考えるための技法」に着目した指導が十分ではなかったからではないかと考える。また、国語科の中だけで指導が完結してしまうなど、国語科で身に付けた力を他教科等で活用させる機会を意図的に設定できていないという現状がある。

そこで、本研究では、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を習得させるための国語科における指導方法と習得させた力を活用させるための他教科等との関連の図り方を明らかにしていくこととした。国語科「書くこと」の領域における指導では、「考えるための技法」を授業に取り入れることで、理由や根拠を明確にして書く力を高めていく。また、他教科等で国語科「書くこと」において習得した書く力を生かす場面を整理し意図的に活用させることで、習得した力の更なる育成を図っていきたい。

このように国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連を図ることで、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究目標

理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を身に付けた児童を育成するために、国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫と他教科等との関連の在り方を究明する。

Ⅳ 研究仮説

仮説 1

国語科「書くこと」の領域において、「考えるための技法」を用いることで、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を習得させることができるであろう。

仮説 2

他教科等において、国語科で習得した書く力を生かす場面を整理し、意図的に活用させることで、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力を育成することができるであろう。

Ⅴ 研究内容

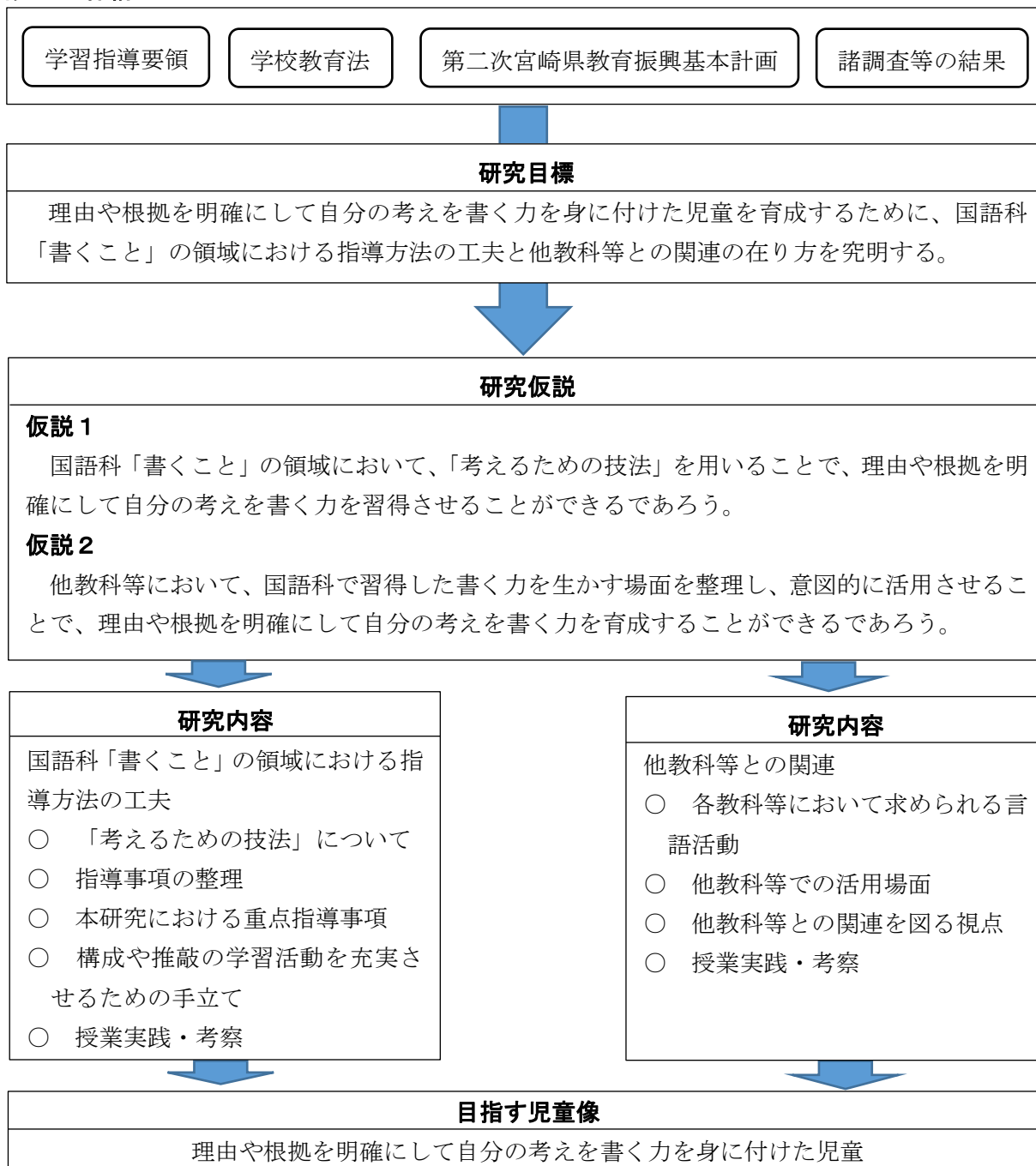
- 1 主題の捉え方
- 2 国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫
 - (1) 「考えるための技法」について
 - (2) 指導事項の整理
 - (3) 本研究における重点指導事項
 - (4) 構成や推敲の学習活動を充実させるための手立て
- 3 他教科等との関連
 - (1) 各教科等において求められる言語活動
 - (2) 他教科等での活用場面
 - (3) 他教科等との関連を図る視点
- 4 検証授業Ⅰ
 - (1) 国語科の授業実践
 - (2) 考察
- 5 検証授業Ⅱ
 - (1) 社会科の授業実践
 - (2) 考察

Ⅵ 研究計画

月	主な日程・内容	研究方法
4	○ 主題・副題・主題設定の理由・研究目標 研究仮説・研究内容・研究計画の設定	文献研究
5	○ 理論の構築	文献研究
6	○ 理論の構築	文献研究
7	○ 全体協議会 ○ 検証授業Ⅰの準備	文献研究 教材研究
8	○ 検証授業Ⅰ・Ⅱの準備	文献研究 教材研究
9	○ 検証授業Ⅰ 「国語科 理由づけを明確にして説明しよう グラフや表を用いて書こう」 ○ 検証授業Ⅰの考察	文献研究 授業実践と考察
10	○ 検証授業Ⅱ「社会科 わたしたちの食料生産」 ○ 検証授業Ⅱの考察	文献研究 授業実践と考察

1 1	○ 全体協議会に向けた準備	全体協議会の資料作成
1 2	○ 全体協議会（1 2 / 1 3）	全体協議会の資料作成 研究報告書の作成
1	○ 研究のまとめ	研究報告書の作成
2	○ 研究のまとめ	研究報告書の作成 パネルの作成
3	○ 主題研究発表会（3 / 9）	主題研究発表会の資料作成

VII 研究の全体構想



Ⅷ 研究内容

1 主題の捉え方

「根拠」や「理由」の捉え方について鶴田清司氏の著書を基に次のように整理した。「根拠」とは、誰が見ても明らかな証拠資料（客観的な事実・データ）のことであり、書かれたテキストにおける文・言葉、グラフや図表に示された数字、絵や写真に表されたものなどである。「理由」とは、事実・データに基づく解釈・推論のことであり、どうしてその証拠資料から「自分の考え」を示せるのかを説明するものである。本研究においては、この考えを基に「根拠」と「理由」を以下のように定義付けて研究を進めていく。

- | |
|--------------------------|
| ○ 「根拠」・・・客観的な事実・データ |
| ○ 「理由」・・・事実・データに基づく解釈・推論 |

2 国語科「書くこと」の領域における指導方法の工夫

(1) 「考えるための技法」について

「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書くためには、どのような内容をどのように書けばよいのかを考えることが必要となり、そのための技法を身に付けさせることが大切であると考えられる。そこで、理由付ける・順序立てる・比較する・評価するの4つの「考えるための技法」を用いることとする。なお、これらの技法は泰山裕氏・小島亜華里氏が教科共通に求められる思考スキルとして示されたものの中から本研究に関連するものを選んだものである。

【表1 「考えるための技法」の定義（泰山裕氏・小島亜華里氏の研究より）】

「考えるための技法」	定義
理由付ける	意見や判断の理由を示す。
順序立てる	視点に基づいて対象を並び替える。
比較する	対象の相違点・共通点を見付ける。
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ。

この4つの「考えるための技法」を用いることは、【表2】のようなよさがあると考えられる。

【表2 「考えるための技法」のよさ】

「考えるための技法」	よさ
理由付ける	「根拠」から「自分の考え」を示すための「理由」を考えることができる。
順序立てる	「理由」・「根拠」・「自分の考え」の3つの事柄を書く際の順序について考えることができる。
比較する	異なる文章構成を比較させることで、学習した文章構成の効果に気付かせることができる。
評価する	「自分の考え」や相互関係の明確さ、表現の適切さという視点で文章のよさや改善点を考えることができる。

(2) 指導事項の整理

第5学年及び第6学年の「書くこと」の領域における目標は「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書くこととする態度を育てる。」である。「書くこと」の領域は、「課題設定や取材」、「構成」、「記述」、「推敲」、「交流」の5つの指導事項で構成されている。そこで、「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く力を身に付けさせるために小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）を基に、5つの指導事項を【表3】のように整理した。

【表3 指導事項の整理】

指導事項	内容
課題設定や取材	目的や意図を明確にし、根拠となる資料を探すこと
構成	それぞれの段落の記述内容や段落相互の関係、文章構成を考えること
記述	事実と感想、意見などを区別するとともに、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして自分の考えを書くこと
推敲	「自分の考え」などを明確に表しているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さはないかどうかを確かめること
交流	友達の文章のよさを感じ取ったり相手に助言したりすること

(3) 本研究における重点指導事項

本研究では、【表3】のように5つの指導事項を踏まえながら授業を行っていくが、4つの「考えるための技法」の活用がより多く求められる「構成」と「推敲」に重点を置いて指導していくこととする。理由付けること・順序立てること・比較することは、それぞれの段落の記述内容や段落相互の関係、文章構成を考える際に効果があると考えられる。また、評価することは、推敲する際に「自分の考え」などを明確にしているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さはないかどうかを考える際に効果があると考えられる。そこで、重点指導事項と4つの「考えるための技法」を【表4】のように整理し、具体的な指導につなげていくこととする。

【表4 重点指導事項と4つの「考えるための技法」との関係】

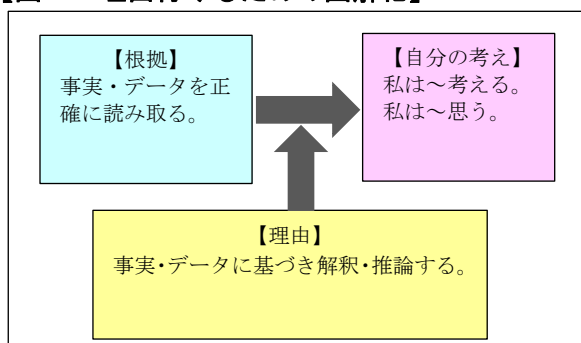
重点指導事項	「考えるための技法」	よさ
構成	理由付ける	「根拠」から「自分の考え」を示すための「理由」を考えることができる。
	順序立てる	「理由」・「根拠」・「自分の考え」の3つの事柄を書く際の順序について考えることができる。
	比較する	異なる文章構成を比較させることで、学習した文章構成の効果に気付かせることができる。
推敲	評価する	「自分の考え」や相互関係の明確さ、表現の適切さという視点で文章のよさや改善点を考えることができる。

(4) 構成や推敲の学習活動を充実させるための手立て

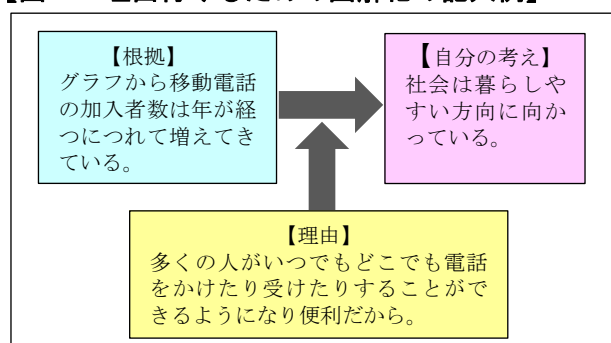
ア 理由付けるための手立て

「理由」とは、事実・データに基づいて解釈・推論し、どうしてその証拠資料から「自分の考え」を示せるのかを説明するものである。しかし、事実・データに基づいて解釈・推論し「理由」を記述することに対しては抵抗感がある児童もいると考えられる。そこで、理由付けるための手立てとして【図1】のように図解化をさせていく。図解化させることで、児童が頭の中にある情報を視覚的に捉えることができ、理由付けられるようになると考える。なお、図解化する際には、「理由」を考えさせる視点も明確に示していきたい。

【図1 理由付けるための図解化】



【図2 理由付けるための図解化の記入例】



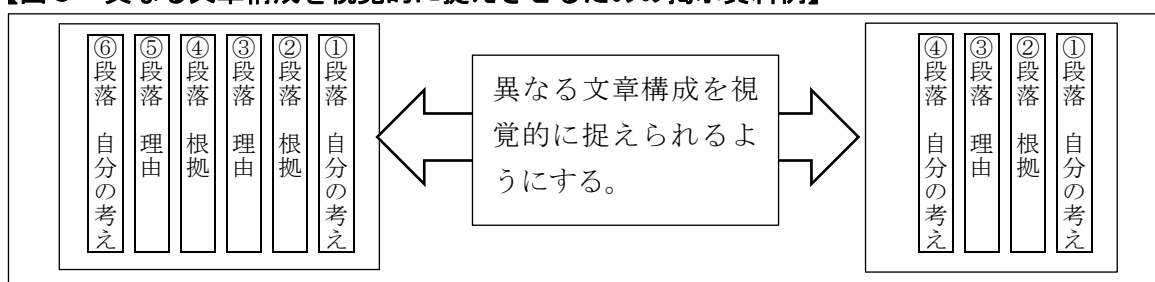
イ 順序立てるための手立て

「理由」・「根拠」・「自分の考え」の記述内容を決定したら、この3つの要素をどのような順番で書いていくか順序立てることが必要になる。その際には、「理由」・「根拠」・「自分の考え」を付箋に書かせておき、並べ替える活動を行わせていく。付箋は数種類の色があり、移動が可能であるというよさがある。色ごとに書く内容を整理させ、それらを並び替える活動を行わせることで、児童が文章構成について深く考えることができると考える。また、付箋には自分の思いや考えを端的に書くことができ、書くことが苦手な児童の抵抗感を軽減することにもつながると考える。

ウ 比較するための手立て

学習した文章構成の効果を考えさせるためには、異なる文章構成を比較させ、その違いを明確にさせることが重要であると考え。そのためには、異なる文章構成の違いを視覚的に捉えさせ、教師の発問を通して児童に比較させていくことが効果的であると考え。

【図3 異なる文章構成を視覚的に捉えさせるための掲示資料例】



エ 評価するための手立て

推敲する際に評価する視点がないと他者が読んで理解しやすい文章かどうかを判断することはできない。そこで、誤りを訂正したり、よりよい表現にするために書き直したりできるように評価シートを作成し、以下のような視点で自己評価や相互評価を行わせていくことにした。

- ① 「自分の考え」を書くことができるか。
- ② 事実を正確に書くことができるか。
- ③ 理由付けることができるか。
- ④ 「理由」・「根拠」・「自分の考え」を段落ごとに分けて文章を書くことができるか。
- ⑤ 誤字・脱字はないか。

3 他教科等との関連

「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」では、国語科において、記録、要約、説明、論述といった言語活動の能力を身に付けさせていくこと、また、国語科で培った能力を基本に、各教科等の目標を実現するための手立てとして、言語活動を充実させていくことが記されている。

そこで、本研究では他教科等の目標を実現するために、国語科「書くこと」の学習で身に付けた能力を発揮できるような場面を整理し活用させることで、国語科で習得した能力のさらなる育成につなげるようにしたい。

(1) 各教科等において求められる言語活動

「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」では、各教科等の指導において論理や思考といった知的活動を行う際、次のような言語活動を充実することが明記されている。

- 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
- 事実等を解釈するとともに、考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

留意事項としては以下のことが述べられている。

【事実等を正確に理解すること】

- ① 児童生徒が理解するに当たって、視点をもたせるようにすること
- ② 設定した視点に応じて対象から情報を適切に取り出すようにすること

【他者に的確に分かりやすく伝えること】

- ① 自分や伝える相手の目的や意図をとらえるようにすること
- ② 目的や意図に応じて事実等を整理できるようにすること
- ③ 構成や表現を工夫しながら伝えられるようにすること

【事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること】

- ① 事実等を知識や経験と結び付けて解釈し、自分の考えをもたせるようにすること
- ② 自分の考えについて、探究的態度をもって意見と根拠、原因と結果などの関係を意識し、説明する際にはそれを明確に示すこと
- ③ 自分の考えと他者の考えの違いをとらえ、それらの妥当性や信頼性を吟味したり、異なる視点から検討したりして振り返るようにすること

【考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること】

- ① 考えを伝え合う中でいろいろな考えや意見があることに気付くことができるようにすること
- ② それらの考えには根拠や前提条件に違いや特徴があることに気付くことができるようにすること
- ③ それぞれの考えの異同を整理して、更に自分の考えや集団の考えを発展させることができるようにすること

上記の留意事項は、下線に示したとおり「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く活動と関連しているものが多い。以上の事から「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く力は、各教科等の目標実現のための言語活動を支える重要な力であると考えられる。

(2) 他教科等での活用場面

国語科で習得させた「理由や根拠を明確にして自分の考えを書く力」を他教科等で活用できると考えられる場面について「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」に記載されている「教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項」を基に【表5】のようにまとめた。具体例については、第5学年の授業実践を想定したものを示している。

【表5 活用場面】

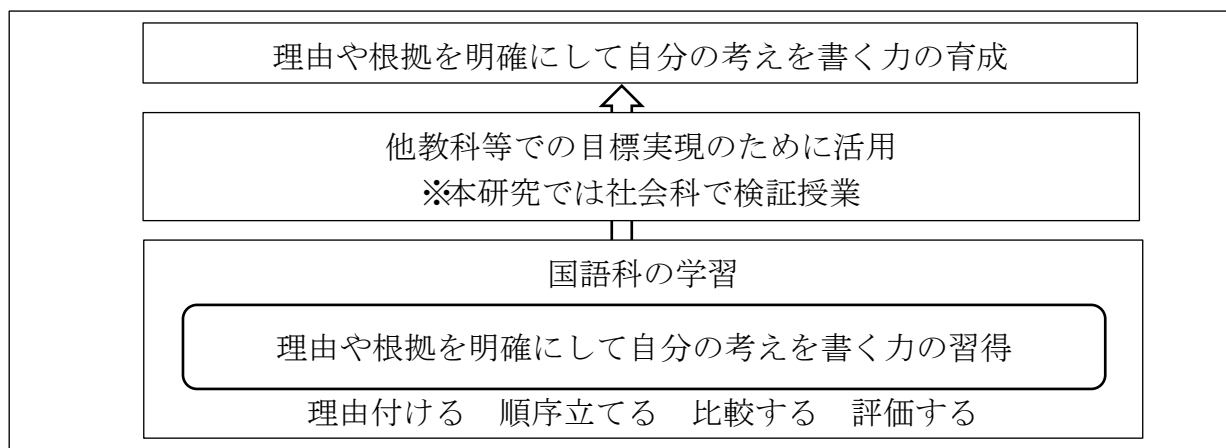
教科等	活用場面	具体例
社会	調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら、図や文章などで表現し説明する。	多くの食料を輸入に頼っていても問題はないのか、資料を基に自分の考えを説明する。
算数	言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解するとともに、それらを適切に用いて、問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったりする。	面積・人数が異なる場合、どちらが混んでいるのかを言葉や数、式を用いて説明する。

理科	科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする。	天気図を基に今後の天気を予想し、説明する。
家庭	自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする。	日頃の食事で五大栄養素をバランスよくとれているか分析し、食事のとり方で気を付けたいことを説明する。
体育	資料を基に練習方法や作戦を考えて教え合ったり、その成果や課題について話し合ったり、学習カードにまとめたりする。	ボール運動においてチームの動きを基に勝つための作戦を説明する。
道徳	道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める観点から、書く活動や話し合う活動など一人一人の感じ方や考え方を表現する。	登場人物の心情を資料の内容を基に説明する。
総合的な学習の時間	体験したことや収集した情報を整理したり、分析したりして思考する活動へと高めるとともに、他者に伝えたりまとめたりする。	調査した事を基に防災マップを作り、地震や津波の際の安全な避難の仕方をまとめる。
特別活動	自己の生き方についての考えを深めるために実践したことや体験したことを自分の言葉でまとめたり、発表し合ったりする。	これまでの係活動の取組を振り返り、これからどのような活動をしていくのかを説明する。

(3) 他教科等との関連を図る視点

本研究では、他教科等との関連を図る際には、理由付ける・順序立てる・評価するといった「考えるための技法」を活用したり、国語科で学んだ文章構成の効果を確認したりしながら学習を進めていく。そうすることで、国語科で習得した書く力を更に育成していくことができると考える。

【図4 他教科等と関連を図るイメージ図】



4 検証授業 I

(1) 国語科の授業実践 (全6時間)

<p>【单元名】理由づけを明確にして説明しよう グラフや表を用いて書こう</p> <p>【单元の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グラフや表を用いて、「理由」や「根拠」を明確にした意見文を進んで書こうとしている。 (国語への関心・意欲・態度) ○ グラフや表を用いて、「理由」や「根拠」を明確にした意見文を書くことができる。 (書く能力) ○ 文末表現や双括型の文章構成の特色について理解することができる。 (言語についての知識・理解・技能) <p>【主な学習活動】</p> <p>統計資料等を用いて、「日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているか」という問いに対して「理由」や「根拠」を明確にして「自分の考え」を書く学習活動である。その際、「自分の考え」につながる資料を2つ用いさせ、双括型で文章を構成する。</p>
--

時間	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	研究の視点
1	<p>1 本単元の学習内容を知り、単元全体の学習課題をつかむ。</p> <p>○ 学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グラフや表を用いて意見文を書こう。</p> </div> <p>○ 学習計画の確認</p>	<p>○ 「ごみの総排出量の推移」と「電話の加入数の推移」の2つのグラフを基に、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているか意見文を書かせる。</p> <p>○ 教師が書いた意見文を示すことで、本単元で完成させる意見文のイメージをもたせるようにする。</p> <p>○ 学習計画表を示すことで、児童が見通しをもって学習できるようにする。</p>	
2	<p>2 日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているか、向かっていないかを考える。</p> <p>○ 「自分の考え」の形成</p> <p>○ 資料の読み取り</p>	<p>○ 資料を読み取る視点を伝えることで、児童が資料から「自分の考え」の「根拠」を見出すことができるようにする。</p>	
3	<p>3 図解化を通して理由付けし、文章構成を考える。</p> <p>○ 「理由」の記述</p> <p>○ 文章構成の決定</p> <p>○ 文章構成の効果</p>	<p>○ 図解化を通して、「根拠」と「自分の考え」を結び付ける「理由」を考えさせる。</p> <p>○ 図解化した付箋を並べ替えさせることで、文章構成を考えさせる。</p> <p>○ 比較して考えさせることで、文章構成の効果に気付かせる。</p>	<p>理由付けるための図解化</p> <p>順序立てるための付箋の並び替え</p> <p>文章構成の効果を考えるための比較する活動</p>
4	<p>4 意見文の下書きをする。</p>	<p>○ 文章構成を基に、意見文の下書きをさせる。</p>	
5	<p>5 自己評価や相互評価を行い、下書きを推敲する。</p> <p>○ 評価する視点</p>	<p>○ 評価する視点を示し、意見文の下書きの自己評価や相互評価を行わせ推敲をさせる。</p>	<p>評価するための「文章評価シート」の活用</p>
6	<p>6 意見文を完成させ、友達と読み合う。</p>	<p>○ 互いに意見文を読み合い、助言し合うことを通して、自分の考えを深めたり自分の表現の参考にさせたりしていく。</p>	

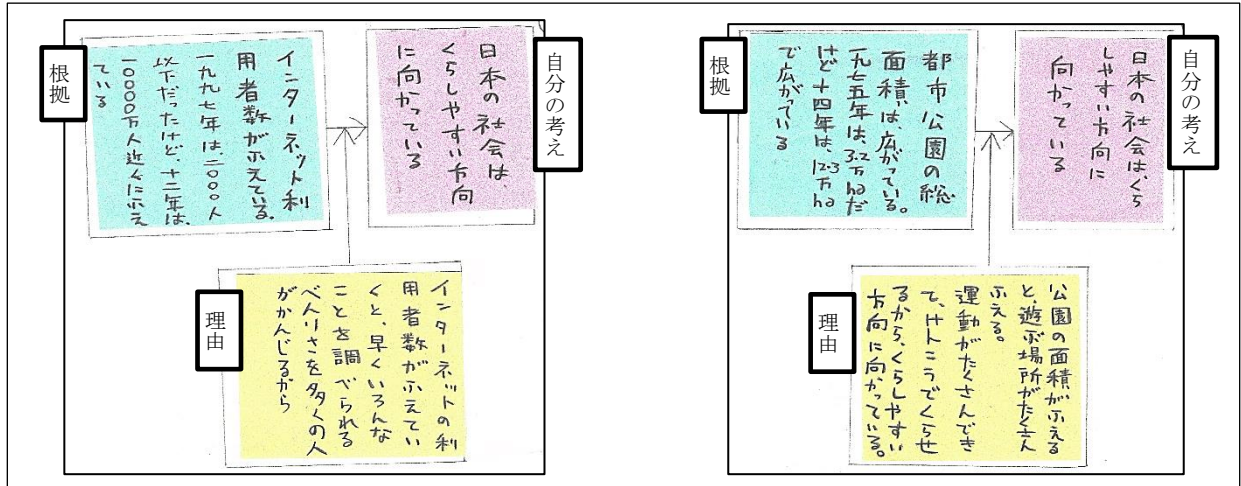
ア 理由付けるための図解化

単元の第2時に「自分の考え」と「根拠」を付箋に書く活動を行い、第3時では、理由付けるための図解化を行った。理由付ける際には、「社会は暮らしやすい方向に向かっている」と考えた児童には、便利さ、安心、楽しさという視点で、「社会が暮らしにくい方向に向かっている」と考えた児童には不便、不安、不快という視点で考えさせた。

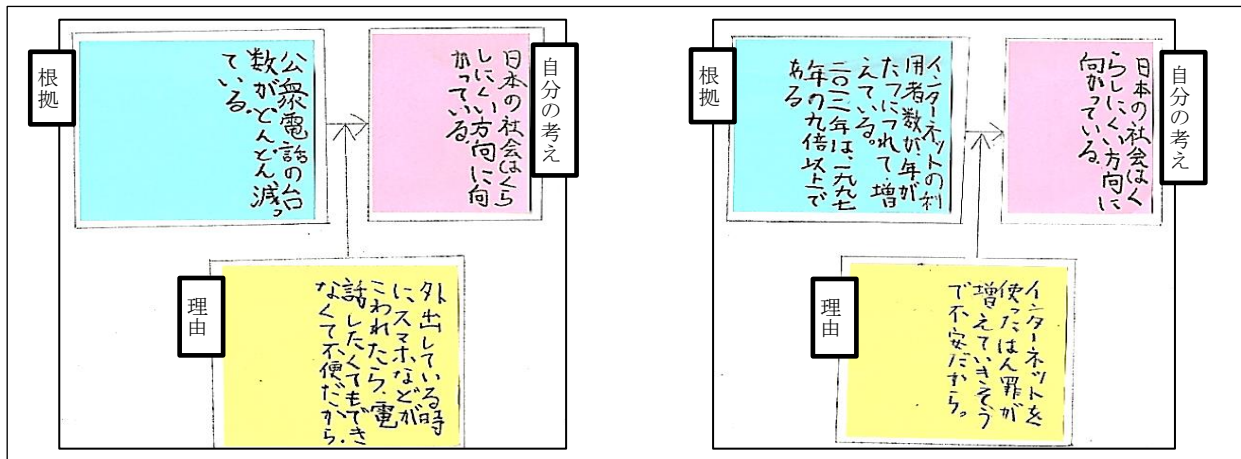
【画像1】は日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていると考えた児童がかいた図である。この児童は都市公園の総面積が増えているという事実を基に運動がたくさんできて健康で暮らせるから、インターネットの利用者数が増えているという事実を基に早くいろいろなことを調べられる

人が増え便利になるからと理由付けている。【画像2】は日本の社会は暮らしにくい方向に向かっていると考えた児童がかいた図である。インターネット利用者数が増えているという事実を基に、インターネットを使った犯罪が増えていきそうで不安だから、公衆電話の設置台数が減っているという事実を基に、スマートフォンなどが壊れた時に不便を感じるからと理由付けている。

【画像1 児童がかいた図】



【画像2 児童がかいた図】



イ 順序立てるための付箋の並び替え

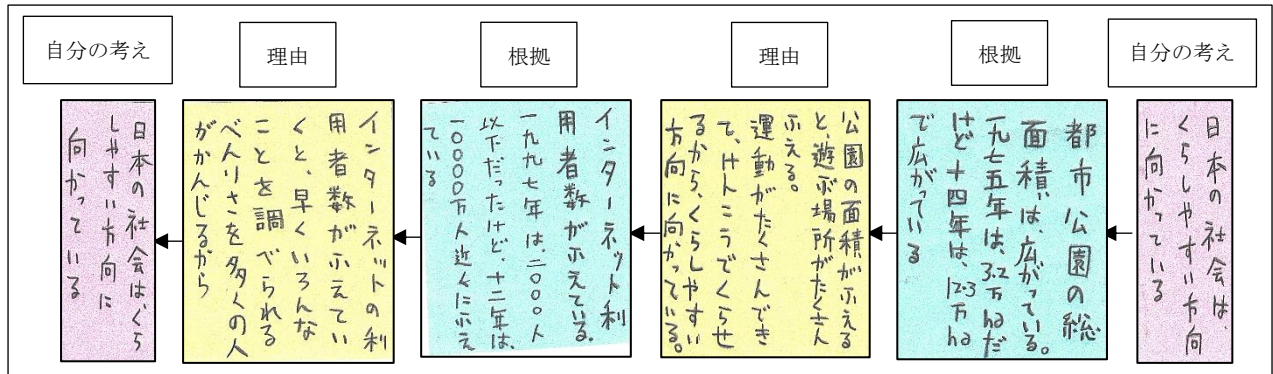
図解化を行った後は、付箋の並び替えを行わせることで、文章構成を考えさせた。並び替えを行わせる際には、本単元の1時間目に教師が示した以下の例文を基に並び替えを行わせるようにした。

(段落：①「自分の考え」 ②「根拠」 ③「理由」 ④「根拠」 ⑤「理由」 ⑥「自分の考え」)

① ぼくは、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていると思います。
 ② 右のグラフは、ごみの総排出量の推移を示したものです。このグラフから、一人一日当たり排出量と総排出量は年が経つにつれて減っていることが分かります。一人一日当たりの排出量は、二〇〇一年から二〇〇〇年にかけて約二〇〇グラム減っています。
 ③ ごみを減らすことで、ごみを焼くやくしよ分する時に出る二酸化炭素を少なくすることができ、今、問題となっている地球温暖化の対さくにもつながります。
 ④ 左のグラフは電話の加入数の推移を示したものです。このグラフから、携帯電話の加入数は年が経つにつれて増えていることが分かります。一九九九年から二〇〇一年にかけては、加入数が二倍以上に増えていきます。
 ⑤ 携帯電話の加入数が増えることで、多くの人がいつでもどこでも電話をかけたり受けたりすることができるようになります。便利な社会になるといえるでしょう。
 ⑥ これらのことから、ぼくは、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていると思います。

【画像3】は【画像1】の付箋を児童が並び替えたものである。

【画像3 児童が並び替えた付箋】



ウ 文章構成の効果を考えるための比較する活動

付箋を並び替えた後には、学習する文章構成の効果に気付かせるための比較する活動を行った。双括型は「自分の考え」を強調する効果があること、また、資料を2つ用いて「理由」や「根拠」を2回示すことは文章の説得力を増す効果があることに気付かせるために、【図5】【図6】のような掲示資料を活用し、異なる文章構成を比較させた。

(7) 双括型のよさ

【図5】を基に、⑥段落がある時とない時を比較し話し合わせることで、最後の段落にも「自分の考え」を書いた方が読み手に「自分の考え」をしっかりと伝えることができることに気付かせた。

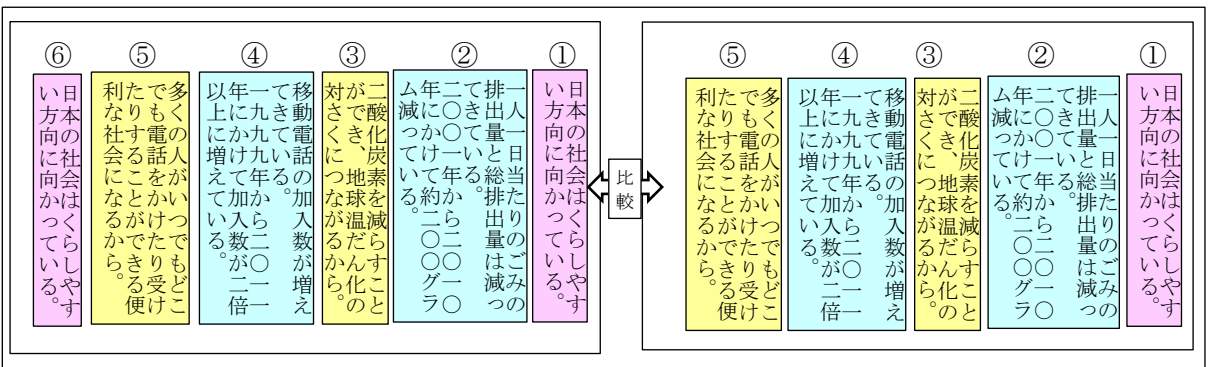
T: ①段落と⑥段落はどちらも「自分の考え」です。⑥段落がある時とない時（⑥段落を黒板からとる）はどちらの方がいいですか。

C1: ⑥段落があったときがいいです。資料から分かった事や「理由」を書いた後に、もう1度暮らしやすいと言った方がわかりやすいからです。

C2: ぼくも、⑥段落があった方がいいと思います。はじめに「自分の考え」もあるんだけど、「理由」などを書いた後に、だから、「自分の考え」はこうなんだと書いた方がよいしめくりになって、相手に自分の考えが伝わるからです。

T: 2人の発表から、最後の段落でも「自分の考え」を書いた方が読み手に「自分の考え」をしっかりと伝えることができますね。

【図5 双括型のよさに気付かせるための掲示資料】



(4) 資料を2つ用い「理由」や「根拠」を2回示すよさ

【図6】を基に、資料を1つ用いた時と資料を2つ用いた場合を比較させることで、資料を2つ用いて、「理由」や「根拠」を2回書くことは資料が1つの時よりも説得力が増すことに気付かせた。

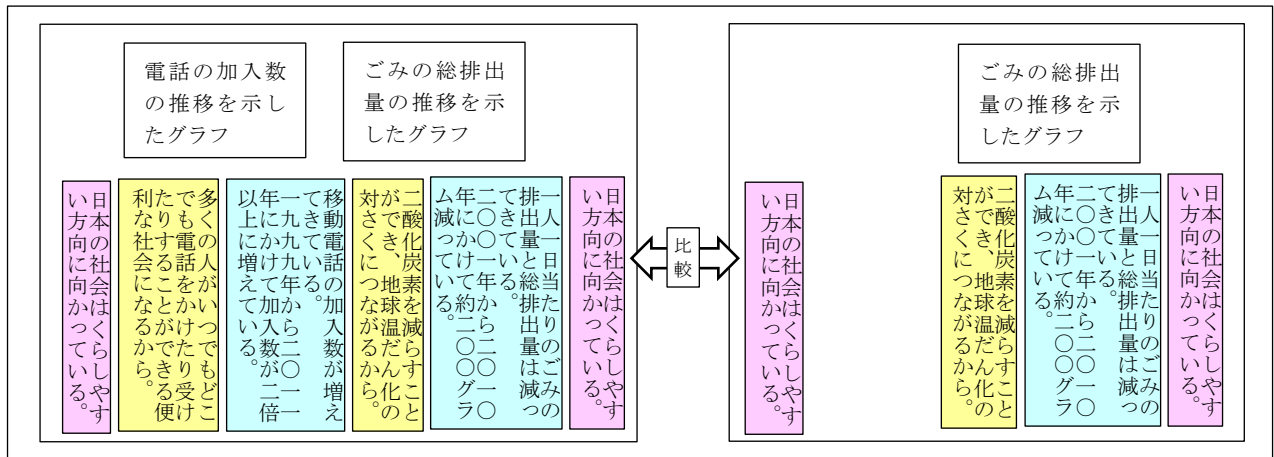
T: 「ごみの総排出量を示したグラフ」も「電話の加入数の推移を示したグラフ」も日本の社会は暮らしやすい方向に向かっているということを書くために使っています。先生は「ごみの排出量を示したグラフ」だけで「電話の加入数の推移を示したグラフ」はなくてもいいかなと思います。(黒板から掲示資料をとる。)みんなは「電話の加入数の推移を示したグラフ」がある場合と無い場合ではどちらがいいと思いますか。

C1: 私は「電話の加入数の推移を示したグラフ」があった方がいいと思います。「ごみの排出量のグラフ」だけだと、暮らしやすい方向に向かっているということにあまり納得できないからです。

C2: ぼくも資料が1つよりも2つの方が、資料から分かることや「理由」が増えて、日本の社会は暮らしやすい方向に向かっていることになるほどと思うからです。

T: 資料が1つの時よりも資料を2つ用いて、「理由」や「根拠」を2回書いた方が説得力が増しますよね。

【図6 資料を2つ用い「理由」や「根拠」を2回示すよさに気付かせるための掲示資料】



エ 評価するための「文章評価シート」の活用

単元の第5時には【画像4】のような「文章評価シート」を活用し、前時に書いた下書きを自己評価した後、友達と読み合い相互評価を行った。

【画像4 文章評価シート】

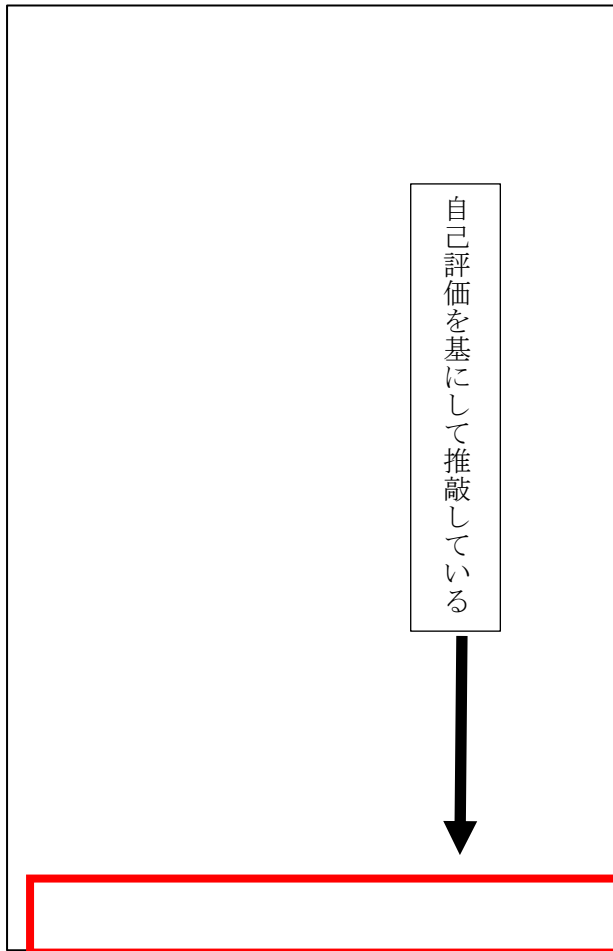
The image shows a peer review sheet titled '文章評価シート' (Peer Review Sheet). It includes a table for evaluation and handwritten feedback.

- Feedback 1 (top left, red box):** 自動車の台数の理由は多くの人がこの言葉をつけたから。(The reason for the number of cars is that many people used this word.)
- Feedback 2 (middle left, red box):** 車がマナーで運転するのはいい。(Driving a car with manners is good.)
- Feedback 3 (bottom left, red box):** 二十四時間あって便利なのはいい。(It's good that it's available 24 hours and convenient.)
- Grid:** A table with columns for '評価する視点' (Evaluation perspective) and rows for '自分' (Self) and '友達' (Friend). The grid contains circles and triangles representing scores. A red box highlights a triangle in the '友達' row under the '説とく方のある理由を書くことができています。' (Reasons for the statement are written clearly.) column.
- Annotations:**
 - 'アドバイスをしている' (Giving advice) points to the first feedback box.
 - '具体的によさをほめている。' (Specifically praising the merits) points to the third feedback box.

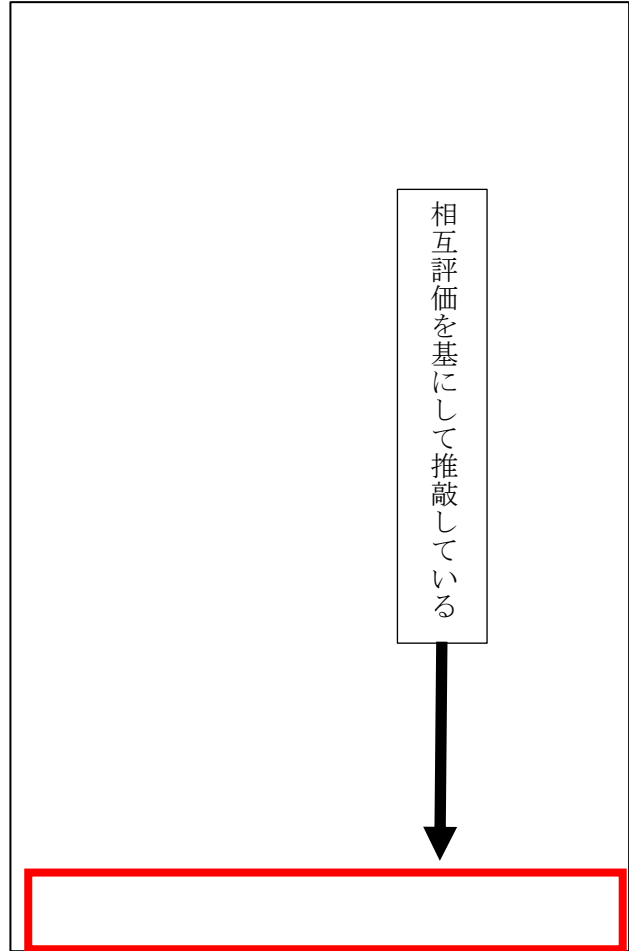
【画像4】では、相互評価の際に、説得力のある理由を書くことができているという項目において、△をつけ、「自動車の台数の理由は多くの人という言葉をつけくわえるといいかも」とアドバイスをしている。また、「二十四時間あいていて便利というのはわかりやすい」と友達が書いた文章のよさを認める記述も見られた。

【画像5】では、自己評価の際に、「理由」が不十分であるとして、「他にもいろいろな人と仲良くなれて楽しい社会になるといえるでしょう。」と「理由」を付け加えている。【画像6】では、相互評価の際に友達に「いろいろを詳しく書いた方がよい。」というアドバイスを受けて、「分からないことを調べられたり、ネットで物が買えたりできるからです。」というように修正をしている。

【画像5 児童が書いた下書き】



【画像6 児童が書いた下書き】



【児童が書いた意見文】

自分の考え	理由	根拠	理由	根拠	自分の考え
向かっていると思います。	の社会はくらしやすい方向に 向かっていると思います。	図書館とぞう書数が増える こと、多くの人が分からない ことを本で調べることができ、 便利な社会といえるでしょう。	左のグラフは、日本の図書館 数とぞう書数を表したもので す。このグラフから日本の図書 館数とぞう書数は年が経つに つれて増えていることが分か ります。	右のグラフは、犯罪の認知件 数と検挙件数を示したもので す。このグラフから認知件数が 一九九二年から二〇〇二年に かけて増えていますが、二〇〇 二年から二〇一五年にかけて 減っていることが分かります。	私は、日本の社会はくらしや すい方向に向かっていると思 います。

